

主体的に取り組む学習指導の工夫

— 身近な地域素材の教材化をとおして —

目 次

I	テーマ設定の理由	149
II	主体的に取り組む学習指導	150
1	主体的に取り組む学習	150
2	主体的に取り組む学習態度の育成	150
III	身近な地域素材の教材化	151
1	身近な地域の概念	151
(1)	地域とは	151
(2)	身近な地域とは	152
2	素材と教材について	153
(1)	素材について	153
(2)	教材について	153
3	教材化の意義	155
4	教材化の視点	156
(1)	教師の立場からの視点	156
(2)	生徒の立場からの視点	156
5	教材化の手順と方法	157
(1)	教材化の手順	158
(2)	素材収集の方法	158
(3)	教材の活用方法	159
(4)	教材活用の留意点	159
6	年間指導計画（公民的分野）	160
IV	授業実践	162
1	検証授業	162
2	授業展開例	173
V	研究の成果と今後の課題	174
	＜主な参考文献・資料＞	174

宜野湾市立真志喜中学校

斉 藤 美喜夫

主体的に取り組む学習指導の工夫

— 身近な地域素材の教材化をととして —

宜野湾市立真志喜中学校 教諭 斉藤 美喜夫

I テーマ設定の理由

今日、わが国においては、情報化、国際化、高齢化、価値観の多様化等、社会の各方面における変化には著しいものがあり、今後は更に拡大し加速化することが予想される。今回の中学校学習指導要領の改訂は、このような社会の変化とそれに伴う生徒の生活や意識の変容に配慮しつつ、生涯学習の基礎を培うという観点に立ち、21世紀を目指し社会の変化に自ら対応できる、心豊かな人間の育成を図ることをねらいとしている。こうして、社会の変化に主体的に対応できる能力や創造性の基礎を養い、生き方を追求する態度を育成するために、自ら学ぶ意欲と主体的な学習の仕方を身につけることが重要となってくる。また、本県が教育主要施策として推進している「学力向上対策」の基本方針は基礎的・基本的事項の定着を図ることであるが、その際、主体的に学習に取り組む姿勢が大切になる。

社会科は、「広い視野に立って、わが国の国土と歴史に対する理解を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことを目標としている。その目標達成のためには、生徒一人一人に対して学習への意欲を持たせ、学習の仕方、社会や人間に関するものの見方や考え方、自己の生き方を追求する態度を養うことが必要となる。つまり、主体的に学習に取り組む自己教育力が重要となる。

ところが、社会科学習に関するアンケートを取ってみると、①覚えることが多い暗記教科で面倒である。②学習内容が広範囲で進度が早く勉強が間に合わない。③自分で考えまとめて発表することが苦手である。等の声が聞かれ、自らすすんで学ぼうとする意欲、態度が十分であるとはいえないという結果が得られた。私自身、これまでの授業を振り返ってみると、多くの指導内容を消化するために、教師中心の画一的な一斉授業に終始していた。また、高校入試や定期テスト等の現実に対応せざるを得ないため暗記学習になりがちであった。それから、進度を気にするあまり、個々の生徒のつまずきに対する適切な対応が、十分なされないままの状態をつくってきた。このような授業方法では、生徒は受動的な学習態度に陥り、自分で課題を設定したり、設定した課題について考えたり判断したりする場面が少なくなり、主体的に学習に取り組むことは難しくなる。

したがって、生徒一人一人が自ら学習に対して課題意識を持ち、自らの力で意欲的に取り組み、課題解決できるような指導の工夫・改善が必要となる。そこで、身近な地域にある素材を教材化した学習を展開すれば、生徒は親近性や具体性を持ち、学習意欲を高め、また観察・調査等により多様な学習活動が可能となり、主体的な学習態度を育成することができるであろうと考える。こうして、一人一人の生徒に身近な地域素材を教材化した学習指導を試みれば、学習に対する興味・関心が高まり、主体的な学習への取り組みが期待できるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 主体的に取り組む学習指導

1 主体的に取り組む学習

主体的とは、「他からの保護や干渉を受けないで独立して物事を考え、行動できるようす」「自分の意志判断によって、自らの責任を持って行動する態度のあること」と捉える。主体的の現象としては、「自分からすすんで」あるいは「自分一人で」という態度や行動の様相があげられる。それから、主体的の本質としては、広い意味での価値志向性「もっとわかりたい」「もっとできるようになりたい」等、よりよいもの、より高いものを目指す意欲があげられる。

主体的に取り組むとは、「テストがあるから学ぶ」「宿題があるから勉強する」等の他律的な学習ではない。生徒一人一人が問題を含んだ事物・現象に接し、「なぜだろう」「どうしてだろう」と疑問を持ち、それを自分自身で解決しようと努力する自律的な学習のことである。つまり、「先生に叱られるから」「友達に負けたくないから」という気持ちの強い生徒は、主体的に学習に取り組んでいるとはいえない。「勉強がおもしろいから」とか「いろんなことを知りたいから」等の気持ちで、他者から強いられることなく、自分の意志に基づいて学習する生徒が、主体的に学習に取り組んでいるといえる。

このように、主体的に取り組む学習とは、一人一人の生徒が自分の興味・関心によって、自主的に展開する学習活動のことである。

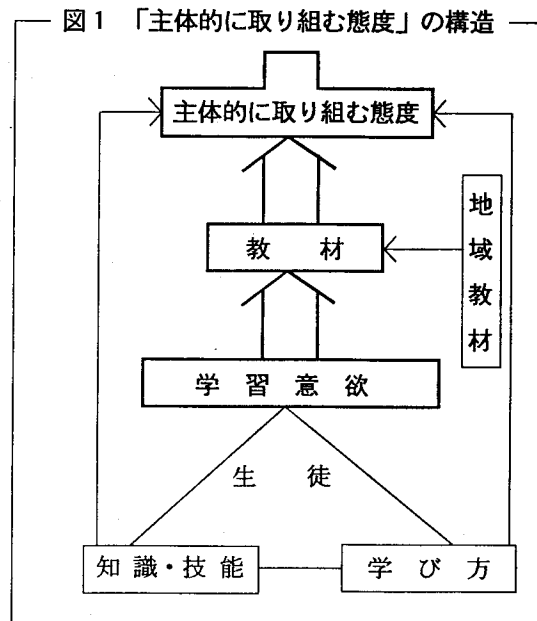
2 主体的に取り組む学習態度の育成

学習に主体的に取り組む態度の基礎となるものは、自ら学ぼうとする学習意欲である。

学習意欲とは、学習することへの動機づけを行い、学習することの楽しさや達成の喜びを体験させ学習することへの意欲を高めることである。この学習意欲は、生徒を学習へと駆り立てる原動力であり、学習を推し進める力となる。

学習意欲を高める方法の一つとして、動機づけの方法が考えられる。学習への動機づけには種々の要因が考えられるが、大別すると外的動機づけと内的動機づけに分けられる。

外的動機づけとは、ほめたり、叱ったりして学習活動を喚起させようとするもので、学習活動以外の誘因を強めることによって学習を活発にする。この方法は、動機づけの最も容易な方法として用いられやすいが、目標が外部から与えられるということで、自発性・主体性を阻害し、他律的・依存的学習の傾向が強められる



という短所がある。

これに対して、内的動機づけとは、外的報酬に依存せず、行動すること自体が目標となり、行動が内発することをいう。これは、学習へ強い興味・関心を抱き、「おもしろいから」「知りたいから」ということで学習に取り組むことであって、何かの報酬のためにするものではない。

したがって、主体的に取り組むための学習意欲は、外的動機づけに終わることなく、内的動機づけに転換させることが重要となる。

このような学習意欲を高めるには、多様な学習方法が考えられるが、その一つとして、生徒が興味・関心を持つような教材・教具を開発して指導する方法があげられる。

そこで、地域に眠っている学習素材を掘り起こし、学習の目的にかなうような手作りの教材化を進め、観察や体験を豊かに取り入れた学習を行うことによって、主体的に学習に取り組む態度を育成していこうと考える。生徒の学習意欲は、体験的なものに支えられていることが多い。自らの生活や日常の思考とかけ離れたものには、驚きや感動を伴うことは少ない。学習事項が、各自の日常生活の中に織り込まれていて、それが生活上の役に立てば、学習に対する興味・関心は高まる。観念的な思考よりも実学的な思考が、抽象的な言語表現よりも具体的な実物や本物に接する方が、知的好奇心を呼び覚ます動機づけになる。知的好奇心に目覚めるとき、学習に興味・関心を抱き、そして主体的に学習に取り組もうとする意欲に駆り立てられる。

こうして、身近な地域素材を教材化することにより、一人一人の生徒の学習意欲を喚起させ、主体的に学習への参加を促すことができる。

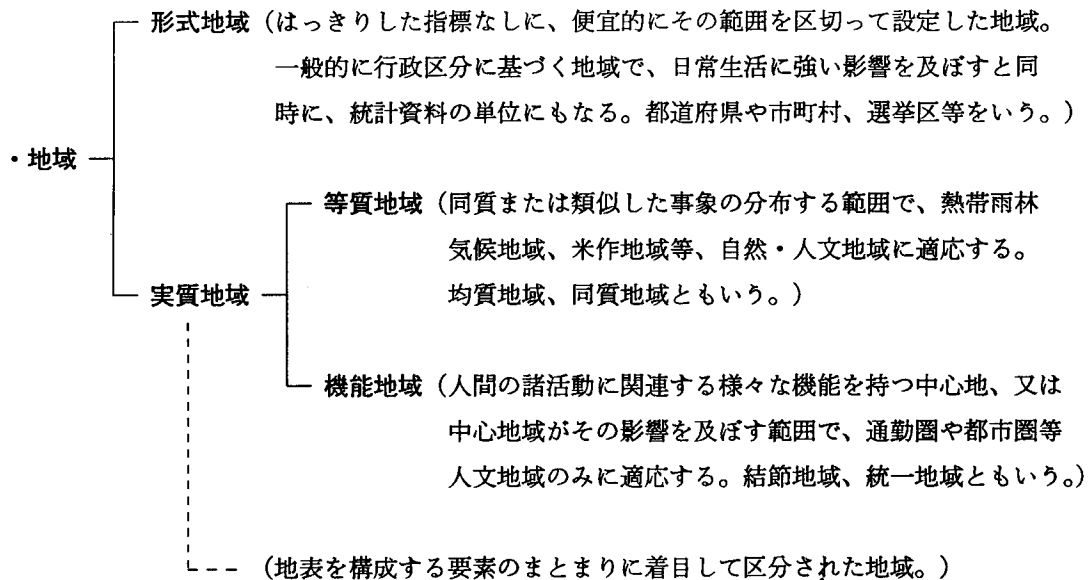
III 身近な地域素材の教材化

1 身近な地域概念

(1) 地域とは

地域という概念は、地理学においては、「一定の目標と観点・方法によって画定された地表上の一部分のこと」や「何らかのまとまりを持つ地表面上の一定の広がり」と定義されている。地表上は、学校、市役所、商店、民家等のある一定のスペースを持つ建物と、道路、公園、田畑、森林等に覆われている。これら個々のものは、ある程度の空間的な広がりを有しているが地域を構成している要素にすぎない。地域とは、これらの要素が広く大きくまとまった複合体であり、全体として何らかの共通する特色や統一性を持っている。

地域の範囲は、区分目的によっていろいろ異なり、一律に区分・範囲を規定することはできないが、文部省「中学校指導書 社会科」には、次のように分類されている。



このように、地域とはいっても多様な捉え方があり、たとえば、日本地理では、市町村や都道府県とそれらの集合体である地方を地域と、外国地理では、国やそれらの集合体を地域と称して使用している。

したがって、地域の範囲を学習指導上の観点に立って適切に設定し、「身近な地域」を考えてみる必要がある。

(2) 身近な地域とは

身近な地域は、生徒の日常生活と直接結びついた地域である。それは、現在一人一人の生徒が生活している場であり、また生まれてから今日まで育まれてきた場所である。身近な地域における諸事象は、河川・丘陵・森林等の自然や、学校・商店・工場等の建物、道路・港湾・空港等の要素から成り立つ。この自然での行楽や遊び、デパートへの家族揃っての買い物等、自分の家を中心として形成される空間的範囲のことを身近な地域という。

この身近な地域の範囲として、①学校を中心とした通学地域、②通学地域とその周辺を加えた地域、③行政単位としての地域、④その他住民と生活と深くかかわりのある地域の四つが考えられる。この地域観は、等質地域や機能地域のいずれの取り上げ方であっても、学校所在地を含むことからすれば、同じ意味に捉えることができる。

したがって、身近な地域の範囲としては、生徒の日常生活が深くかかわり、直接観察・調査が可能な学校所在地の市町村とするのが適切である。

2 素材と教材について

(1) 素材について

素材とは、語義的には、「なにかをつくる時の材料」と定義されており、学習においては、「教材化を目的とした教科書教材以外の事例、材料」を意味する。

どのような事物・経験も学習の媒体となりえる。これは、生活の過程が学習の過程であるという広い見方に立って捉えたものである。このような学習の媒体となりえる経験の一つ一つ、またはその叙述や説明を、学習の素材という。意図的に編成される前の新聞記事や文学作品、発明・発見の事実やその叙述・説明が学習の素材である。たとえば、新聞は、素材だといって教室に持ち込んでも、学習に役立つ教材とはなりえない。いろんな新聞記事の中から学習内容に適した素材を収集、選択し、あるいは作成することによって教材化し、はじめて学習に活用できる教材となるのである。

こうして、素材を教材に変えるためには、学習の指導目標や指導計画に照らして、適切な内容や形式を備えたものであるか、学習者である生徒の発達段階にあわせて、その程度が適切なものであるか等を吟味する必要がある。

(2) 教材について

教材とは、「ある内容を学習させるための材料」または「教えるという教育活動において、教師と生徒との間に介在する意図的な材料」と定義されている。学習は、教材を媒体とする教師と生徒の相互作用による展開であり、媒体としての教材は、ものの見方や考え方を捉えさせるための原動力となる。

こうした教材について、よい教材の条件、教材を具体的に選択するときの視点、教材の組織化について考えてみたい。

① よい教材の条件

ア 教材の真実性

学習者である生徒一人一人に、自然や社会や人間に関する真実の知識を習得させるためには、学習させる対象（事実・現象）を歪めることなく、事柄の本質を理解させることが重要となる。

イ 教材の論理性、系統性

教材には、それ自体の論理性がある。その論理性に従って個々の教材を論理的につないでいくことが、教材の編成である。また、生徒が確かな知識を獲得するためには、教材を単純なものから複雑なものへと順を追って学習することが必要となる。このような教材の論理性と学習の順次性とが相互に配慮されて、全体として系統性を持った学習とならなければ、習得する知識は生きたものとなりえない。

ウ 教材の直観性

教材は、生徒の発達段階に応じて常に具体性がなければならないし、現実との結びつきを失ってはならない。ここでいう現実とは、教材が生み出される素になる自然の中の事実、社会的事象等のことである。こうした現実との結びつきによって、生き生きとした直観を伴わせ、実践を基礎にして、学習内容を具体的に習得できるように配慮する必要がある。

② 教材選択の視点

教材の中から最適なものを選択するためには、次のような視点が考えられる。

第一の視点は、学習目標である。学習目標によって教材の選択が左右される。この目標を達成させるためには、どのような特質を持つ教材を選択するかということが重要となる。

第二の視点は、生徒の実態である。生徒一人一人の心身の発達段階、知的欲求、過去の経験の有無等と照らし合わせることも重要となる。

第三の視点は、可能性の考察である。教材によって刺激を与えられた生徒の学習活動について、どのような展開になるのか可能性の考察が必要である。

③ 教材の組織化

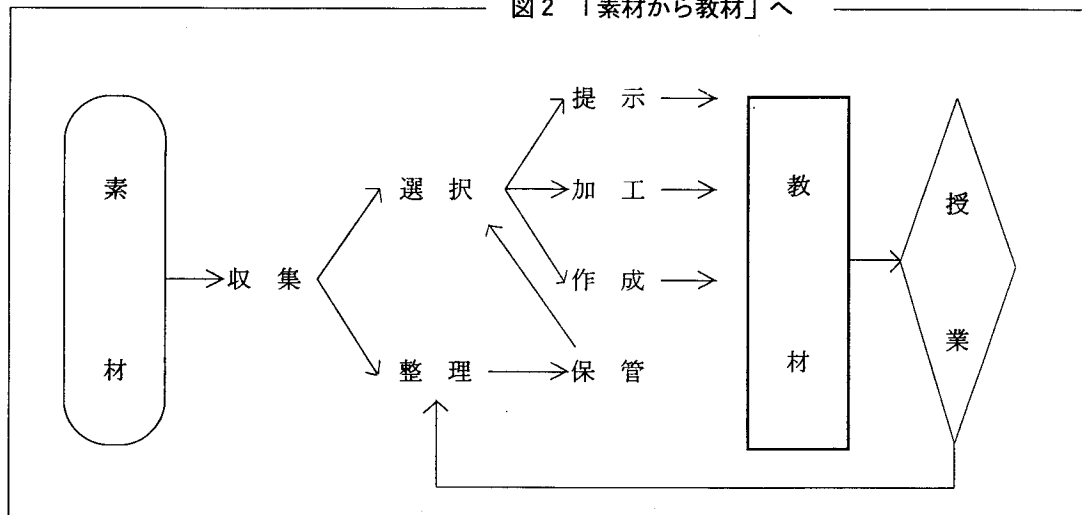
選択された教材が、学習形態として組織化されるには、次のような観点が考えられる。

第一の観点は、教科全体の中で、その教材がどのような位置にあるかということである。目標が綿密に分析されていれば、それを受けて選んだ教材に不適応なものはないはずである。しかし、個々の教材がいかに適切であっても、多くの教材を集めてみた時に偏りがみられる場合がある。それで、教材の系列が教科の目標を偏りなくカバーしているかどうか検討してみる必要がある。

第二の観点は、配列順序である。その教科の構造体型を崩すと、その教科の論理性が失われていく場合がみられる。また、その教材で学習していくためには、生徒の学習能力に関する前提条件が関係してくる。それで、他教科でどのような学習経験をしているかということを配慮して、前後関係を決定しなければならない。

第三の観点は、内容の順序性である。単位としての教材が小さい場合はよいが、教材内容をいくつかの部分に分ける場合は、それらを並行的に扱うのか、前後の順序をつけて提示するかということが問題となる。順序をつける時にも、論理的に段階を追う場合と、疑問や矛盾を追求していく場合とでは、順序が逆になる場合がある。学習目標に従って、教材提示の順序は十分検討しなければならない。

図2 「素材から教材」へ



3 教材化の意義

地域素材の教材化とは、生徒の日常生活の中から様々な素材を見つけだし、指導目標や学習内容に合わせて、役立つ教材として組み立てていくことである。

この身近な地域素材を教材化して学習を展開する意義としては、次のような点が考えられる。

(1) 生徒の興味・関心を喚起し、学習意欲を高めることができる。

社会科の学習内容は、抽象的で概念的なものが多い。そして、その多くは生徒の日常生活にほとんどかわりがない。こうした抽象的で日常性のないものに対して、生徒に興味や関心を持たせるためには、それらの内容を具体的に表しているものを取り上げることが効果的である。その点、地域教材は、生徒にとって身近で具体性・親近性のあるものが多い。自分とは関係ない内容だと思っていた生徒も、地域教材を活用することにより、学習に興味・関心を示し、意欲的に取り組むことができる。

(2) 生徒自ら、直接、見学や観察、調査することができ、多様な学習活動が展開できる。

地域教材は、生徒自ら見学・観察・調査することができ、素材に直接、何度も接することができる。「百聞は一見にしかず」と言われているように、抽象的な文献・資料をたくさん読んだり聞いたりするよりも、実際に自分の目でみた方がよく理解でき、学習を深めることができる。そして、生徒に臨場感を与え、積極的・能動的な学習活動が期待できる。また、調べる、まとめる、発表するという作業的・体験的学習等、多様な学習活動が展開できる。

(3) 生徒に資料を作成させることができ、資料活用能力を育成することができる。

社会科の学習においては、予想を立てて問題を追求していく過程での検証資料は、多くの場合教師によって与えられ、生徒は図書室等で調べた資料を利用する程度である。しかし、地域の問題を追求していく場合には、生徒自身の手で資料を収集・作成し、問題を追求することができる。また、学習内容の諸事象を実証的に考察できる。それから、資料を適切に収集、選択、処理、活用し、考察する資料活用能力の育成を図ることができる。

(4) 学習内容を、多角的多面的に考察することができる。

地域教材による学習の展開は、単に生徒が生活する身近な地域の内容のみ学習することにとどまらない。身近な地域を物差しにして、他地域の諸事象と比較したり、共通性や関連性を捉え、学習内容を一面的でなく多角的・多面的に考察することができる。

(5) 地域社会の一員としての自覚を高めることができる。

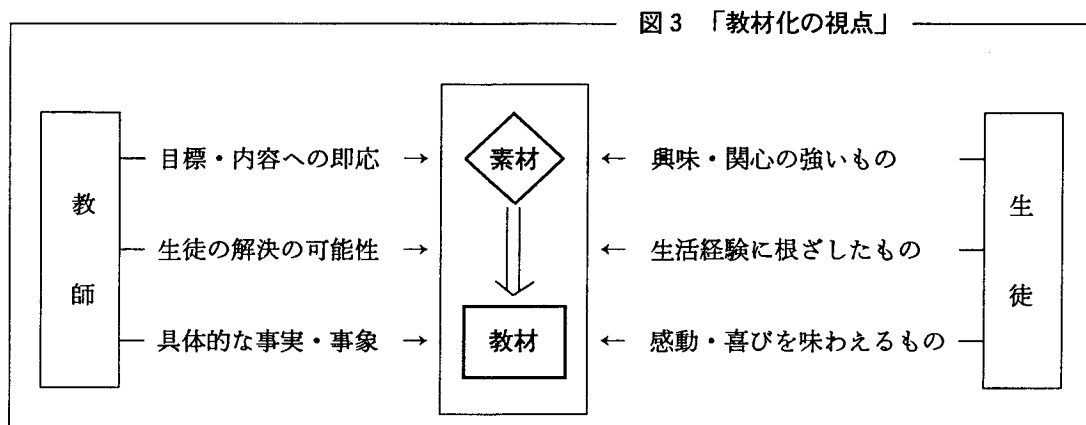
自分の住んでいる地域を学習し、地域についての理解が深まれば、生徒は地域と自分との関係を考えるようになり、社会生活を見直すようになる。そして、地域社会の一員としての自覚を深め、住民としての連帯意識を持つことができる。更に、地域の将来についても想いを抱くようになり、地域における自らの生き方について考えることができる。

(6) 地域の伝統や文化の継承についての関心を高めることができる。

生徒は、地域に根ざした伝統や文化を維持・発展に貢献している人々に接することにより、伝統や文化の学習に取り組むことができる。そして、地域の文化遺産や生活文化への関心を高め、それらを保護・継承しようとする意欲や態度が育まれる。

4 教材化の視点

地域には、数多くの素材がある。その多くの素材の中から、最適な教材となるものを選択し、それらを組み立てて、学習のねらいを達成するための指導計画や指導方法を立案することが大切になる。地域素材の教材化にあたり、しっかりした視点を持つことが、学習の成立や効果を高めるためにも重要になる。



(1) 教師の立場からの視点

① 学習の目標や内容に即しているか。

身近な社会現象を取り上げる前提に、学習の目標や内容を明確にする必要がある。ここでは、学習指導要領の目標や内容が目安となる。

② 生徒の発達段階に即し、解決可能な問題を含んだものか。

教材化に際しては、生徒一人一人の発達段階、地域での生活や学習の経験等を十分に考慮する必要がある。また、生徒が自力で解決できるものを見通すことが重要である。

③ 生徒の経験や意識に結びつく具体的なものであるか。

学習内容が、生徒の意識や関心とかけ離れたものでは、学習効果は期待できない。それで、興味や関心を高めたり、生活経験と結びつく具体的な教材としなければならない。

(2) 生徒の立場からの視点

① 興味・関心を持ち、意欲的に取り組めるものか。

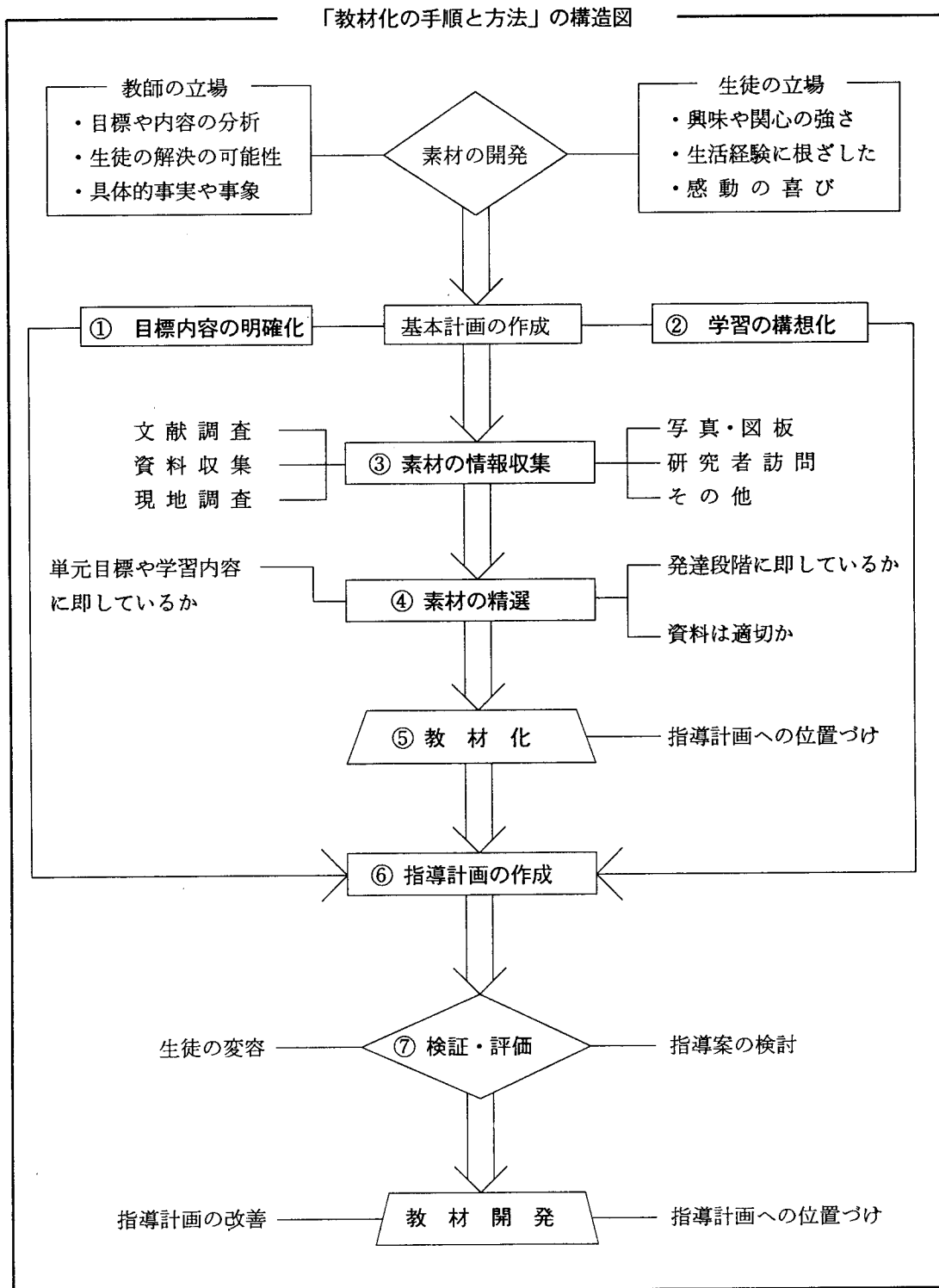
生徒一人一人が、教材を自分のものとして捉えるようにすることが期待される。そうすれば、生徒の学習意欲を喚起すると同時に、発展的に持続させることにつながる。

② 生活経験に根ざし、観察や作業等の活動を通して、実践的に学ぶことのできるものか。

生徒が自らの目、耳、鼻、手、足の五感を通して、素材を発見的に捉えたり、自分の考えをその事実を照らして検討していけるものが期待される。

③ 学ぶことにより、感動や喜びを味わえるものか。

実践的活動を通して地域の様々な価値に触れ、感動や喜びを味わい、地域に対する親しみや所属感を高め、自ら地域に生きていこうとする気持ちを起こさせるものが期待される。



(1) 教材化の手順

① 指導目標、学習内容の明確化

学習指導要領に示されている指導目標や学習内容を分析し明確化する。

② 学習の構想化

教材の効果的利用を念頭におき、指導方法や学習活動の展開を構想化する。

③ 素材の情報収集

構想に基づいて、教材として活用できそうな地域の素材について情報を収集する。

④ 素材の精選

集めてきた素材は、すべて利用されるとは限らない。素材を教材化するためにはしっかりした視点を持って精選する。

⑤ 教材化

指導目標に応じて素材を単純化または再構成し、指導過程における位置づけを明確にしなが
ら教材化を図る。

⑥ 指導計画の作成

指導目標、学習内容、指導方法、学習内容、時数、留意点等を明確にし、独自の指導計画
を作成する。

⑦ 検証と評価

授業により検証し、学習課題に対する生徒の捉え方や意欲、素材の選定や教材化の仕方等
について評価する。

(2) 素材収集の方法

対 象 (なにを)	自然環境、史跡、文化財、統計資料、体験談、写真、日常生活の様子 民話、民謡、古文書、遊戯、地域行事、工場、具体物、等
場 所 (どこで)	図書館、市役所、教育委員会、公民館、新聞社、警察署、病院、農協 消防署、商工会、漁協、税務署、郵便局、農家、古老、神主、等
手 段 (どうやって)	口頭、文書、電話、訪問、見学、アンケート、ビデオカメラ、コピー テープレコーダー、ファクシミリ、等
整 理 (まとめ)	参考資料、統計表、地図、年表、グラフ、絵、写真、ビデオ、TP、 スライド、録音テープ、実物、模型、新聞、等

(3) 教材の活用方法

① 地域教材を単元展開の「中心的教材」として生かしていく。

地域教材による学習を単元展開の基本として構成し、単元でねらう基本目標を地域教材で達成する方法である。この場合、教科書教材は、導入教材として組み込まれるか、または、地域教材で育成された見方、考え方や社会的事象の分析・視点等を補ったり、一般的なものにしていくなために使用される。

② 地域教材を単元展開の「補助的教材」として生かしていく。

これは、単元でねらう基本目標については教科書教材で達成するが、地域の特徴を生かした具体的な展開が可能な地域教材があれば、それで学習してから教科書教材に入っていく方法である。ここで扱われる地域教材は、教科書教材とは違った性格のものであることが要求される。地域教材でなければ不可能な学習内容や方法に焦点化することによって、地域教材導入の意味も大きくなり、教科書教材との重複を避けることになる。

③ 地域自体が学習の対象となる「地域学習」として。

地域を教材とする型で、地域自体が学習の対象となっている。地理的分野の(2)ーイ「身近な地域」が主たる内容である。地域学習においては、地域の問題的把握の側面が軽視される傾向がみられるが、生徒が社会事象を分析する力を自分のものにしていくのはこの問題追求の過程にある。地域を断片的に理解するのではなく、地域の性格を基本的に理解できるような地域教材の扱い方が重要となる。

(4) 教材活用の留意点

① 生徒の特性に配慮して教材を選択する。

身近な地域の諸事象は、直接的な観察調査が可能であるだけに、細かな事象や複雑な事象まで取り上げるおそれがある。それで、生徒の能力、特性等に十分留意して適切な教材選択をする必要がある。

② 新しい地域の特色に気づかせる。

身近な地域で育った生徒にとっては、あまり地域の諸事象にこだわると、新鮮味の乏しい学習になる可能性がでてくる。そのため、単純な追認的・確認的な学習を避け、これまでの体験とは異なった新しい観点から地域を見直し、新しい地域の特色に気づかせるように留意する必要がある。

③ 同じような学習の繰り返しに留意する。

小学校での地域教材の成果を調査し、小学校と扱う観点や内容を変えたり、小学校の成果を踏まえ、より一層補充・拡大するような学習の展開を工夫する。小学校の内容と同じような学習の繰り返しにならないよう留意する必要がある。

④ 地域住民の生活や考え方に着目する。

具体物や具体的事象を取り上げたといっても、物や事象のみに焦点を当てては、生徒の興味・関心を高めることはできない。その物や事象の根底に流れる住民の生き方や考え方を理解させなければ、学習は成功したとはいえない。そこで、諸事象の根本にある地域住民の生き方や考え方に着目して指導する必要がある。

6 公民学習年間指導計画 (試案)
NO. 1

中3年社会科(公民)年間指導計画					
学習月	週	単元	学習目標	学習内容	資料
四	1	公民学習のはじめ	公民学習の意義と基本的事項について理解させる。		1
	2	1 人権の尊重と政治の意義	民主政治における人権尊重と法の支配の考え方を理解させ、現代社会における人権思想の発展につなげる。	人間の尊重と政治の法による政治 市民革命と民主政治の成立 人権思想と民主政治 現代社会と人権思想	掛図 P250 P251 P16 TP
	3	2 日本国憲法の成立	日本国憲法の制定過程と、憲法の三大原則について理解させる。	基本的人権の保障と憲法 大日本帝国憲法の制定 日本国憲法の制定の過程 日本国憲法と国民の願い	掛図 P235 P222
	4	3 基本的人権の尊重	基本的人権を保障する努力の大切さと認識させ、人間の平等の意味について理解させる。	日本国憲法と基本的人権 法の下の平等 自由に生じる権利 労働者の権利 教育を受ける権利 文化の享受 社会の変化と基本的人権	掛図 P222 P255 P252 P34
	5	4 国民主権	国民主権の意義と、そのよきとわるについて認識を深めさせ、日本国憲法の基本原則と自衛隊について理解させる。	国民主権の考え方 国民主権と天皇 平和主義 憲法と自衛隊 日本の安全保障 日本国民の平和への願い	掛図 P222 P50 P51 P263 TP
	6	5 人間尊重と社会生活	人間は社会の中で生活していることを認識させ、家族は愛の共同体であることを理解させる。	人間と家族 家族の役割 新しい家族形態 現代家族の問題 職業の選択 職業と権利 生活と文化 文化の継承と創造	掛図 P239 P18 TP
	7	6 復習・テスト			2
	8	7 国民主権と平和主義			掛図 P222 P50 P51 P263 TP
	9	8 人間尊重と社会生活			掛図 P239 P18 TP
	10	9 復習・テスト			2

●は中心の教材、※は補助的教材

中3年社会科(公民)年間指導計画					
学習月	週	単元	学習目標	学習内容	資料
五	1	1 国民主権と国会	生活と政治のつながりや、国会政治の意味とつなげ、国会のしくみについて理解させる。	政治について考える 国会政治 国会のしくみ 国会のしくみ 国会のしくみ 国会のしくみ 国会のしくみ 国会のしくみ 国会のしくみ 国会のしくみ	掛図 P228 4 TP
	2	2 行政のはたらきと国民生活	内閣と行政機関のしくみと大筋を理解させ、生活と行政とのつながりについて理解させる。	行政と内閣 行政のはたらき 行政と国民生活 議院内閣制 信任・不信任と解散 行政のしくみ問題	掛図 P222 4 TP
	3	3 人権と裁判	司法の意味と重要性と認識させ、裁判の役割について理解させる。	司法と裁判所 三審制 裁判の役割 司法権の独立 裁判と人権尊重	掛図 P222 3 P84 TP
	4	4 地方の分庁	地方の分庁について理解させ、地方分権の意義と役割について理解させる。	地方分庁 地方分権 地方分権	掛図 P222
	5	5 住民の生活と地方自治	地方自治の意味と地方自治法の制定と民主主義の原則について理解させる。	地方自治の意義と制度 地方自治のしくみ 地方自治のしくみ 住民の権利と地方選挙 地方自治の発展 地方自治の発展 地方自治の発展 地方自治の発展 地方自治の発展 地方自治の発展	掛図 P98 TP
	6	6 選挙と政党	民主政治における選挙の重要性と意義と役割について理解させる。	選挙の意義 政治的関心 選挙のしくみ 選挙のしくみ 選挙のしくみ 選挙のしくみ 選挙のしくみ 選挙のしくみ 選挙のしくみ 選挙のしくみ	掛図 P110
	7	7 復習・テスト			2
	8	8 世論と政治	世論の意味とその世論の役割について理解させ、政治の目標と役割について理解させる。	世論の役割 世論の役割 世論の役割 世論の役割 世論の役割 世論の役割 世論の役割 世論の役割 世論の役割 世論の役割	掛図 P110
	9	9 復習・テスト			2
	10	10 世論と政治			掛図 P110

中3年社会科学(公民)年間指導計画					
月	週	単元	学習目標	学習内容	資料
10	1	1. 生活と企業	わが国の経済のしくみと仕組みを学ぶことにより、生活の三要素を理解せよ。企業の特徴と役割を学ぶことにより、生活の三要素を学ぶこと。	わが国の消費生活 経済のしくみ 生産活動と企業 大企業と中小企業 競争の必要性 独占とその問題点	掛図 P259 P260 TP
	2	2. 貨幣と流通のしくみ	貨幣の役割と流通のしくみを理解することにより、消費のしくみを理解せよ。	分業と交換 流通と市場の発達 需要・供給と価格 独占的価格 公共料金 物価の考え方 インフレとデフレ	掛図 P138 TP
	3	3. 消費と家計	消費を中心とした経済活動と家計の関係を理解することにより、消費のしくみを理解せよ。	家計の収入と支出 貯蓄の意義と役割 家計と金融機関 消費の権利と保護	掛図 P146
	4	4. 財政と政府	政府の経済活動と家計・企業との関係を理解することにより、経済活動のしくみを理解せよ。	政府の経済活動 政府の経済的役割 財政と予算 経費と納税 公債発行とその問題点 インフレの経済的効果 財政・金融政策	掛図 TP P156
11	1	・復習			2
	2	・テスト			
	3	5. 日本経済の発展と文化	戦後の経済的発展の背景と文化の発展を学ぶことにより、日本経済の発展のしくみを理解せよ。	経済の民主化と高度成長 産業構造と貿易の発展 経済成長と福祉 世界経済の発展の傾向	掛図 3
	4	6. 国民生活と福祉	わが国の社会保険制度について理解することにより、国民生活の向上と福祉の向上を学ぶこと。	高齢化社会と福祉 福祉と費用 下流と失業 費用の増大と労働力	掛図 P168 P255
12	1	7. 環境・保全と資源問題	経済成長と公害の関係を理解することにより、環境保全と資源問題の重要性を学ぶこと。	経済成長と公害 公害の防止 環境保全 資源の活用	掛図 P262
	2				

中3年社会科学(公民)年間指導計画					
月	週	単元	学習目標	学習内容	資料
10	1	5. 日本経済の発展と文化	戦後の経済的発展の背景と文化の発展を学ぶことにより、日本経済の発展のしくみを理解せよ。	経済の民主化と高度成長 産業構造と貿易の発展 経済成長と福祉 世界経済の発展の傾向	掛図 P180 P261
	2	6. 国民生活と福祉	わが国の社会保険制度について理解することにより、国民生活の向上と福祉の向上を学ぶこと。	高齢化社会と福祉 福祉と費用 下流と失業 費用の増大と労働力	掛図 P188 世界地図
	3	7. 環境・保全と資源問題	経済成長と公害の関係を理解することにより、環境保全と資源問題の重要性を学ぶこと。	経済成長と公害 公害の防止 環境保全 資源の活用	掛図 P245 TP
	4				
11	1	2. 国際社会の成立と発展	国際社会の成立と発展の背景と国際法の役割を学ぶことにより、国際社会の発展のしくみを理解せよ。	国際社会の成立 国際法の役割 国際法の発展 国際法の適用 国際法の発展 国際法の適用 国際法の発展 国際法の適用	掛図 世界地図 P245 TP
	2	3. 国際政治の現状と課題	国際政治の現状と課題を学ぶことにより、国際政治の発展のしくみを理解せよ。	国際政治の現状 国際政治の課題 国際政治の発展 国際政治の適用 国際政治の発展 国際政治の適用 国際政治の発展 国際政治の適用	掛図 P245 TP
	3	4. 国際平和と日本の課題	国際平和と日本の課題を学ぶことにより、国際平和の発展のしくみを理解せよ。	国際平和の現状 国際平和の課題 国際平和の発展 国際平和の適用 国際平和の発展 国際平和の適用 国際平和の発展 国際平和の適用	掛図 P245 TP
	4				
12	1	・復習			2
	2	・テスト			
1	1	・まとめ			3
	2				
計					105

Ⅳ 授業実践

検証授業（補助的教材）

社会科学学習指導案

平成3年 11月27日（水）

真志喜中学校 3年1組

男子19名,女子20名,計39名

指導者 斉藤 美喜夫

研究テーマ

主体的に取り組む学習指導の工夫
～身近な地域素材の教材化をとおして～

1 単元名

「日本経済の発展と変化」

2 単元観

現代のわれわれは、高度産業社会の中で生活を営んでいる。そして、この高度産業社会は、今日重大な転機を迎えている。現代社会の当面する問題は多いが、その性質を考えると経済にかかわるものがその大多数を占めているといつてよい。われわれの生活に密着している経済問題は、きわめて複雑な要因を持っているが、それらの問題の本質を理解し、さまざまな解決策について冷静に考え、自らの判断を下す能力を身につけることが国民として重要となる。

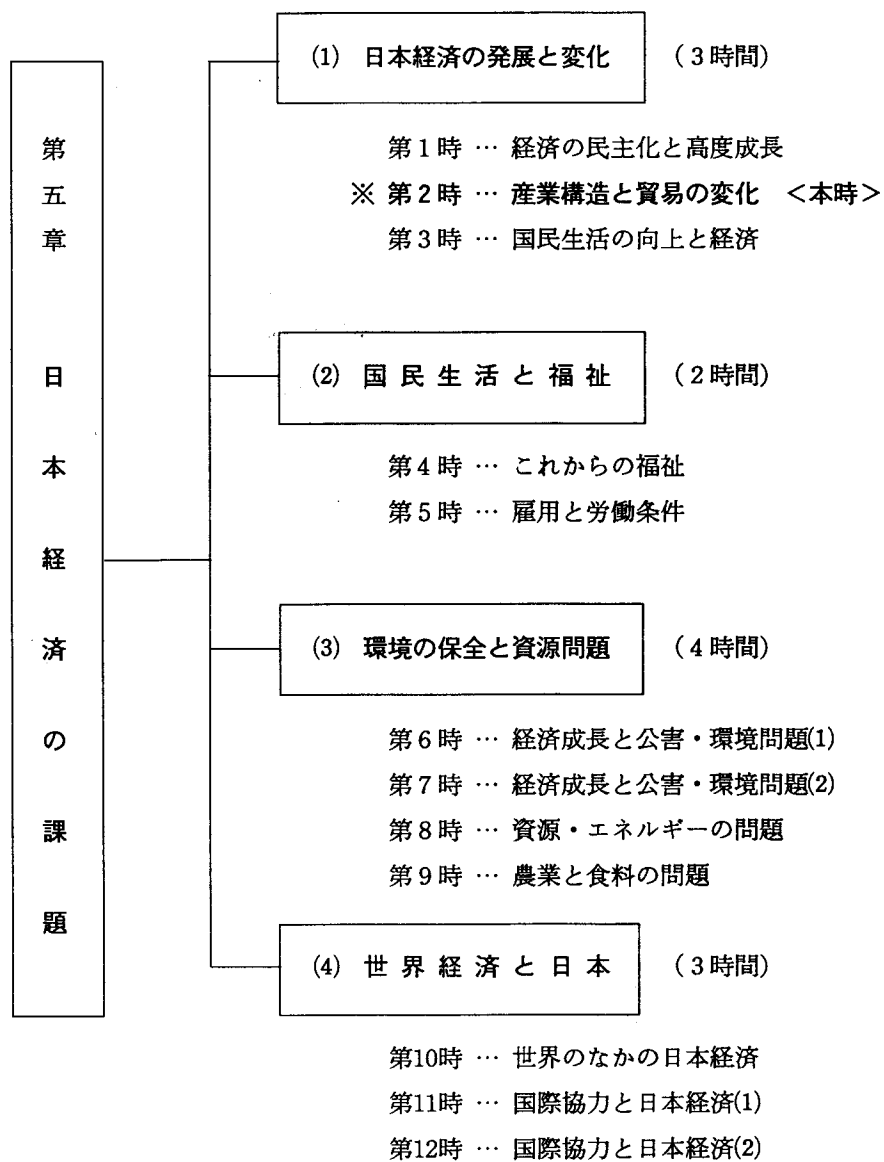
日本経済の仕組みと働きの理解を基礎として、第2次世界大戦後の日本経済の歩みを把握させ、今後21世紀へ向けて生活の向上と福祉の充実、環境の保全と資源問題の重要性を認識させるとともに、世界経済の中での日本経済の位置と役割を理解させる必要がある。

この単元では、戦後行われた農地改革、労働立法、財閥の解体等、経済の民主化に触れ、それらが日本経済の復興とその後の高度成長の基盤を作り出したことに気づかせる。また、昭和30年代から昭和40年代前半にかけてみられた高度経済成長について、どのような要因により達成できたのか理解させ、更に経済成長に伴う経済構造の変化に気づかせる。それから、高度成長による物質的生活の豊かな反面、生活の質の面、環境の問題について考えさせ、GNP第2位まで成長した日本の世界経済に占める地位と役割について理解させる。

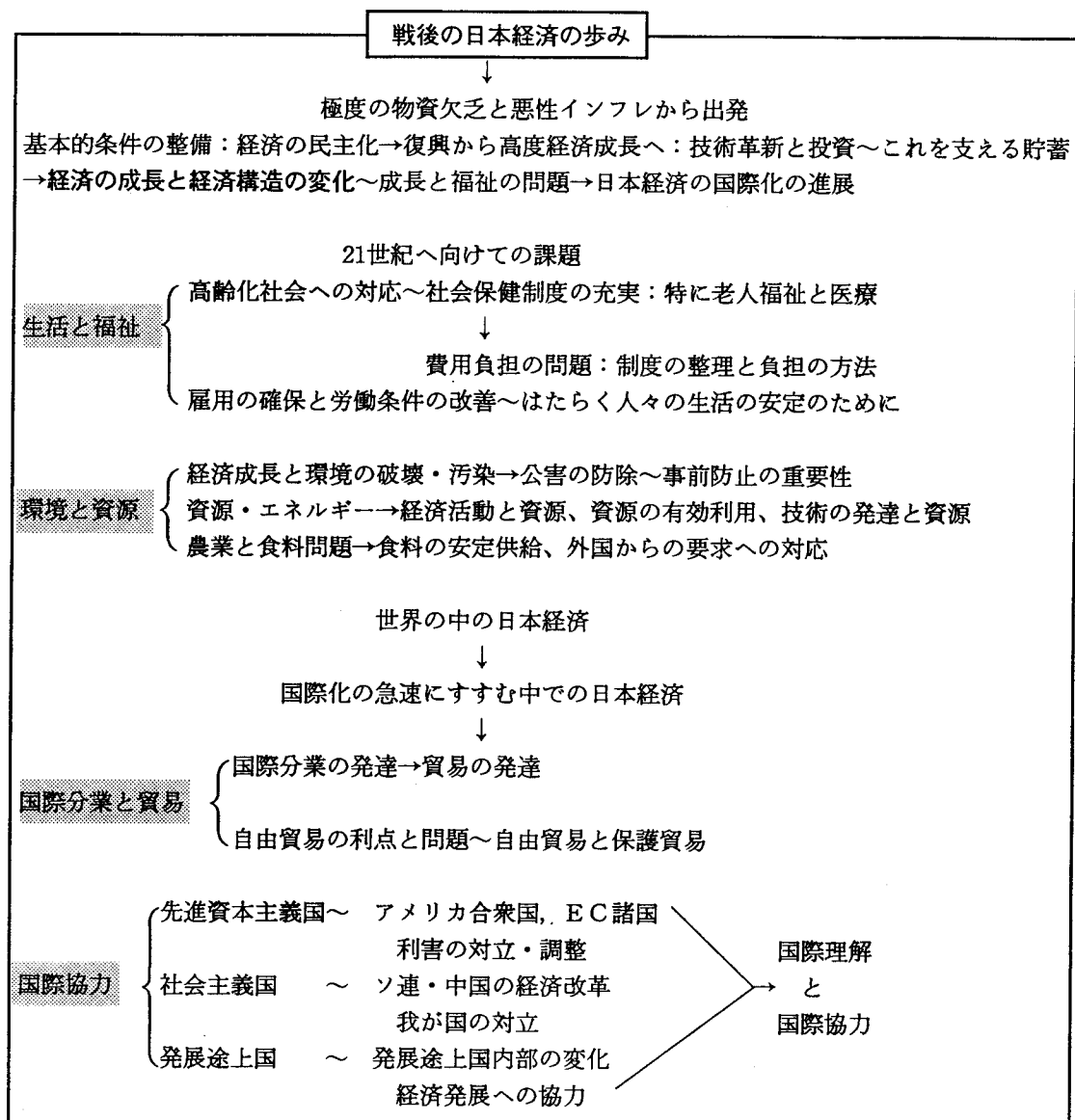
3 単元目標

- (1) 戦後の経済の民主化の意義を認識させ、その後の日本経済の復興と成長の歩みについて理解させる。
- (2) 高度経済成長時の産業構造や貿易構造の変化を理解させ、日本経済の課題について考えさせる。
- (3) 生活の豊かさや福祉の充実の必要性を考えさせ、世界経済の中で日本経済の比重が高まってきたことに気づかせる。

4 単元の指導計画（12時間）



5 単元の全体構造



6 生徒観

男子19名、女子20名の比較的明るいクラスである。すすんで自分の意見を発表したり、質問したりする生徒は少ないが、全体的に真面目な態度で学習に取り組み、指名するほとんどの生徒が答えることができる。男女共、生徒間の学力の個人差が大きい。

公民学習では、政治や経済用語、憲法や法律の条文や語句の意味がわかりにくく、地理的分野や歴史的分野より抵抗があるという意見が多い。男生徒よりも女生徒に苦手意識が多い。

しかし、社会科の授業が楽しいと答えた生徒が多く、特に自分に身近な話題や資料がでると、興味が湧いてくるという反応が返ってきた。公民を学習するようになってから、新聞やテレビ等のニュースの関心が高まってきたという生徒の声が聞かれるようになった。

7 本時の指導

(1) 題材名 「産業構造と貿易構造の変化」

(2) 本時の目標

- ① 戦後、経済の発展にともなって、日本の産業構造が大きく変化したことを理解させる。
- ② 日本の貿易構造は、産業構造の変化と密接に結びついていることを理解させる。

(3) 事前指導と準備

- ① 生徒による調査活動「宜野湾市の産業構造について」 ※
- ② 学習シート①、②
- ③ 豆テスト
- ④ 掛図、写真

(4) 本時の展開

※は地域素材の教材化

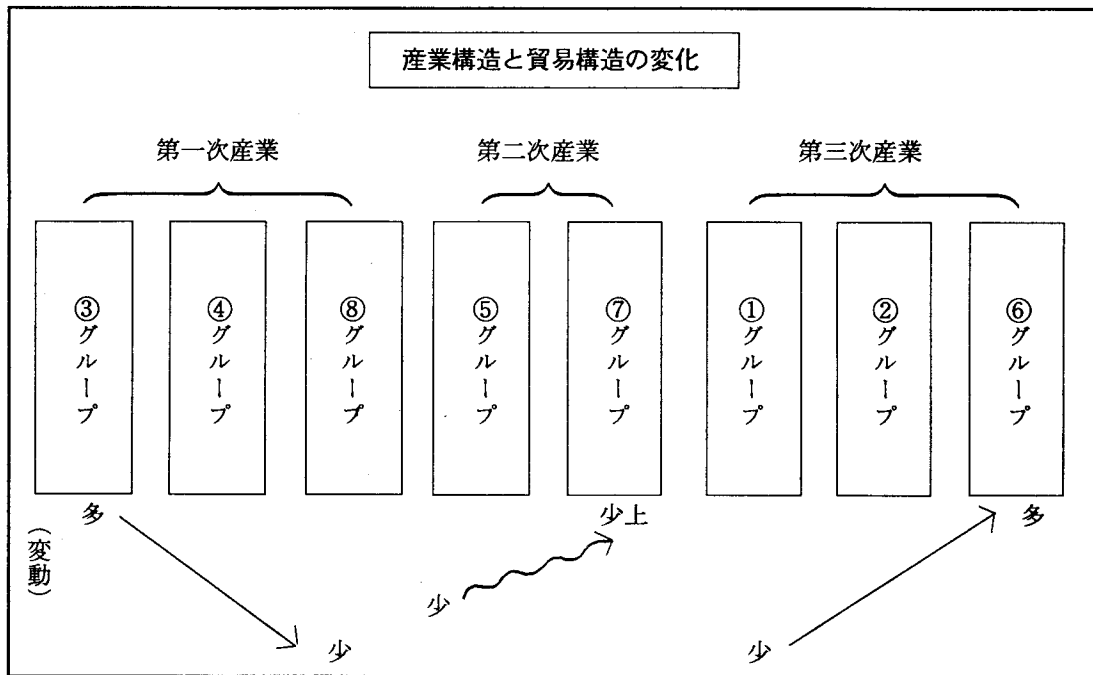
程	形態	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点	資 料
導 入	一斉	・グループの編成		・隣同士の4～5人8グループに編成させる。 ・学習内容の調べ方まとめ方について説明し、意欲化を図る。	
		・本時の学習内容			
展	グループ	1. 宜野湾市の産業 ※ (1) 第一次産業 (2) 第二次産業 (3) 第三次産業		・事前に個別調査してきた「宜野湾市の産業構造」をグループでまとめさせる。 ※ ・発表者の答えと自分の答えの相違点をチェックさせる	シート①
		2. 産業構造の変化 (1) 第一次産業の減少 (2) 第二次産業の増加			

開	一斉	(3) 情報産業 コンピュータ産業	「産業構造の変化」について教師の説明を聞く ※	・ 宜野湾市の例から産業構造の変化を捉えさせる。 ※	教科書 P166 グラフ 写真 掛図 シート
	グループ	3. 貿易構造の変化 (1) 加工貿易 (2) 輸 出 ・戦前－軽工業 ・戦後－重化学工業 ・最近－自動車工業 (3) 輸 入 ・戦前－綿花、羊毛 ・戦後－石油	グループで課題について調査し まとめる (相互評価) まとめたことを発表する	・ 学習シートを配布する。 ・ 机間巡視しながら適宜助言する。 ・ グループ内で話し合わせ、発表させる。	② 資料 P 71
整 理	一斉	(4) 巨大企業の誕生	「貿易構造の変化」について教師の説明を聞く	・ 我国の貿易の特色である加工貿易を理解させ、産業変化による輸出入の変化に気づかせる	教科書 P167 グラフ 掛図
	個別	・ 本時の学習内容のまとめ ・ 次時の学習予告	豆テストにより学習内容をまとめる お わ り	・ 机間巡視を行い、アドバイスをする ・ 学習シート、豆テストを回収する。	豆 テスト

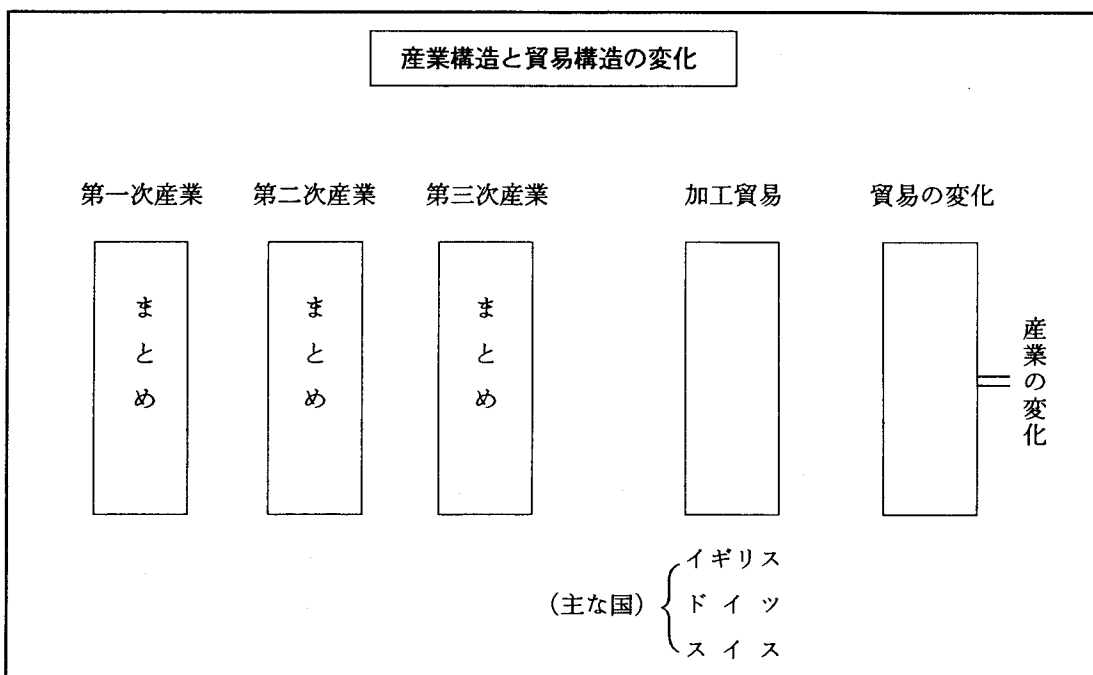
(5) 評価

- ① 戦後、日本の産業構造の変化を理解することができたか。
- ② 日本の貿易構造の変化を理解することができたか。

8 板書計画 (1)



板書計画 (2)



社会科学習ノート ①

月 日 $\frac{11}{27}$	3 年 1 組 42 番	氏名 (當 眞 鈴 香)
---------------------	--------------	----------------

1. 学習課題	① 第一次産業とは何か。宜野湾市にはどういう業種があり、昔とどう変わったか。 ② 第二次産業とは何か。〃 ③ 第三次産業とは何か。〃
2. 課題予想	○ 田いもを作っている人は昔に比べて減っていると思う。 ○ 田いも畑もだんだん少なくなっていると思う。

3. 調べたこと (図、表、絵、グラフ等を活用する。)

○ 第一次産業とは農業、林業、水産業など自然にはたらきかけて食料や原料を生産する産業。
 宜野湾市の農業は伊佐から宇地泊にかけて田イモ畑がたくさんあります。

○ 昔はお米中心の田んぼが多く、そのそばで田イモが少し作られていたけど、今ではほとんどが田イモ畑になっている。

○ 田いもを作る人は昔にくらべて少なくなってきたが一人あたりの面積が増えているため、
 今と昔では全体の面積はほとんど変わらない。

○ 昔は専業農家が多かったけど今では兼業農家が増えてきている。

4. わかったこと (感想)

.....

今の田いも畑は、昔ほとんど米を作っていたことが分かった。

.....

.....

.....

.....

.....

社会科学習ノート ①

月 日 11/27	3 年 1 組 46 番	氏 名 (新 川 真生子)
1. 学習課題	① 第一次産業とは何か。宜野湾市にはどういう業種があり、昔とどう変わったか。 ② 第二次産業とは何か。〃 ③ 第三次産業とは何か。〃	
2. 課題予想		
3. 調べたこと (図、表、絵、グラフ等を活用する。) ○ 沖縄ではもともと工業地帯が少ないため、他県から移入が多く、沖縄では第二次産業の生産量は少なくなっている。 ○ 宜野湾市でみられる第二次産業はペプシコーラやヤクルト会社などがある。		
4. わかったこと (感想) 第一次産業 自然にはたらきかけて必要な物を生産すること 第三次産業 サービス業 ・ コーリン・クラークという人が産業を3つに分けた。 		

社会科学習ノート ①

月 日 ¹¹ / ₂₇	3 年 1 組 50 番	氏名 (前 田 飛 鳥)
-----------------------------------	--------------	----------------

1. 学習課題	① 第一次産業とは何か。宜野湾市にはどういう業種があり、昔とどう変わったか。 ② 第二次産業とは何か。〃 ③ 第三次産業とは何か。〃
2. 課題予想	サービス業はふえている。
3. 調べたこと (図、表、絵、グラフ等を活用する。) ○ サービス業は、物を売ること。 ○ 品物を入れる袋などもサービスの1つになる。 ○ 運輸通信業、商業、金融業もサービス業になる。 ○ タクシー会社は昔に比べて、増えたかへったか→増えた。 お客さんかが増えてきたので会社の数も運転手も増えた。 ○ ガソリンスタンドもサービス業で最近増えている。	
4. わかったこと (感想) 第三次産業 → 第二次産業 → 第一次産業と就業人口が多いことがわかった。 それに比べ、前は一 → 二 → 三と逆だったこともわかった。 	

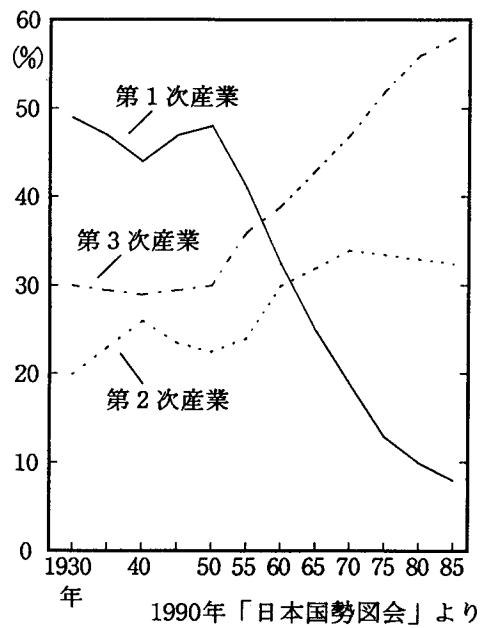
社会科学習ノート ②

月 日 /	3 年	組	番	氏名 ()
-------	-----	---	---	-----------------------------

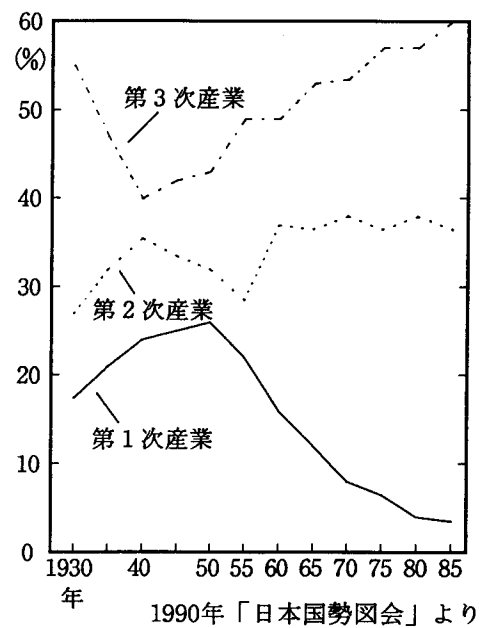
1. 学習課題	① 加工貿易とはどういうものか。どこの国が有名か。 ② 戦前と戦後の貿易はどのように変化したか。																																						
2. 課題予想																																							
3. 調べたこと (図、表、絵、グラフ等を活用する。)																																							
4. わかったこと (感想)																																							
5. 自己評価表 <table style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">5</th> <th style="text-align: center;">4</th> <th style="text-align: center;">3</th> <th style="text-align: center;">2</th> <th style="text-align: center;">1</th> <th></th> </tr> <tr> <td>(1) 日本の産業構造の変化が理解できたか。.....</td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px;"></td> <td rowspan="5" style="vertical-align: middle; text-align: center;"> 総 合 点 </td> </tr> <tr> <td>(2) 日本の貿易構造の変化が理解できたか。.....</td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> </tr> <tr> <td>(3) 課題はうまく調べることができたか。.....</td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> </tr> <tr> <td>(4) 発表、発言はうまくできたか。.....</td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> </tr> <tr> <td>(5) グループはうまく協力できたか。.....</td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> </tr> </table>			5	4	3	2	1		(1) 日本の産業構造の変化が理解できたか。.....						総 合 点	(2) 日本の貿易構造の変化が理解できたか。.....						(3) 課題はうまく調べることができたか。.....						(4) 発表、発言はうまくできたか。.....						(5) グループはうまく協力できたか。.....					
	5	4	3	2	1																																		
(1) 日本の産業構造の変化が理解できたか。.....						総 合 点																																	
(2) 日本の貿易構造の変化が理解できたか。.....																																							
(3) 課題はうまく調べることができたか。.....																																							
(4) 発表、発言はうまくできたか。.....																																							
(5) グループはうまく協力できたか。.....																																							

産業構造の変化

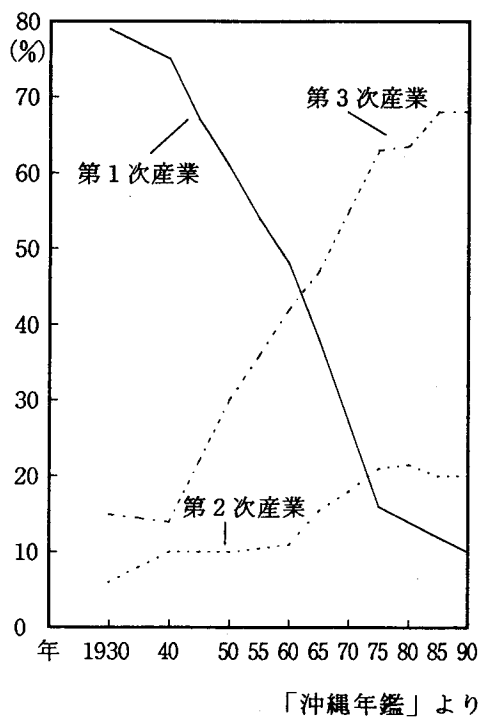
就業人口割合の変化（全国）



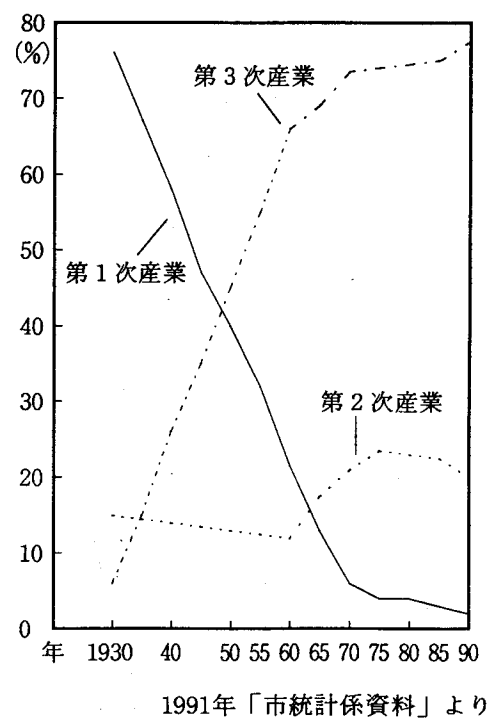
国民所得割合の変化（全国）



沖縄県 就業人口割合の変化



宜野湾市 就業人口割合の変化



授業展開例（中心的教材）

1 本時の指導

(1) 題材名 「地方自治のしくみ」

(2) 本時の目標

- ① 地方自治体の政治は、どのようなしくみで行われているのか理解させる。
- ② 宜野湾市の基本方針や重点施策を知ることにより、地方自治の重要性を捉えさせる。

(3) 事前指導と準備

- ① 資料 「わたしたちの宜野湾市」
- ② 学習シート
- ③ 豆テスト
- ④ 新聞、掛図、写真

(4) 本時の展開

過程	形態	学 習 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料
導 入	一斉	・沖縄県知事の名前 ・宜野湾市長の名前 ・本時の課題確認	はじめ	・地方自治は住民に身近な政治であることを確認する。 本時の学習目標を確認する	・新聞 ・写真
		1. 地方自治の執行機関と政治機構 (1) 宜野湾市の執行機関 (2) 宜野湾市の行政機関 2. 宜野湾市の政治基本方針	「宜野湾市の政治」 しくみについて 調査し、まとめる。	・隣同士4～5人の8グループに編成する。 ・学習シートに書かせてまとめさせる。 ・市政は執行機関にもとで すすめられていることを 理解させる。 ・政治の基本方針から、ど ういう市政を目指してい るのか理解させる。 ・各グループに発表させる。	・シート ・自作資料 ・市機構図 ・広報 「ぎのわん」
展 開	一斉	3. 宜野湾市の今年度の重要施策	調査したことを まとめて発表する (相互評価)	・重点施策からどういう面 に力をいれた政治を実行 しようとしているのか捉 えさせる。	
		4. 地方自治の重要性	「宜野湾市の政治のしくみ」 について、教師の説明を 開く	・日常生活に密着した具体 施策例をあげ、地方自治 の重要性についてまとめ させる。	・掛図 ・写真
整 理	個別	・本時の学習内容の まとめ ・次時の学習予告	豆テストに より学習内容を まとめる おわり	・机間巡視を行い、アドバ イスをする。 ・学習シート、豆テストを 回収する。	・豆テスト

V 研究の成果と今後の課題

「主体的に取り組む学習指導の工夫」をテーマに、身近な地域素材の教材化に視点をあて、理論実践を通して研究をすすめてきた。それで、主体的に学習に取り組むためには、①学習意欲、②学び方、③知識・技能が重要であることが理解できた。また、本研究では「地域素材の教材化の手順」の理論研究に重点を置いたが、その理論を体系化することができた。それから、地域素材を教材化することによって生徒の興味・関心が高まり、学習意欲が喚起され、生徒の主体的な学習活動が、検証授業において立証できたことは大きな成果であった。反面、地域素材のもつ教材価値は無限に等しく、それらを開発することの難しさ、労力の多大さに個人で取り組むことの限界をも痛感した。また、平素より教師自身が地域の社会事象に注視し、地域の人々との交流を親密にすることが大切であると認識した。

今後の課題としては、今回追究できなかった主体的に取り組むための「学び方」や「知識・技能」の研究に取り組んでみたい。また、地域素材の教材化については、新しい素材を発掘するよう地道に努力し、教材開発を継続して実践していきたい。公民的分野については、今回地域教材を組み入れた年間指導計画を作成したが、それに基づく教材や指導計画を作成し、授業実践していきたい。地理的分野や歴史的分野は、地域教材の年間指導計画を作成し、授業計画を構成していきたい。さらに、課題解決学習と地域教材の活用とのかかわり方について取り組んでみたい。

このように、多くの成果と課題が示されたが、研究はこれで終わったのではなくこれから始まるのである。本研究所における研究教員としての四ヶ月の研究は終了したが、今後学校現場に戻り、上述の課題を解決していくよう、日頃の実践活動を通してさらに研究を継続、深化、発展させていきたい。

最後に、研究の機会を与えて下さいました本市教育委員会、御指導して頂いた伊波義雄主事をはじめとする関係各位の先生方に心より感謝し厚く御礼申し上げます。

<主な参考文献・資料>

文部省	『中学校指導書 社会編』	大阪書籍	1898年
小関 洋治編者	『生活に根ざした文化の学習』	明治図書	1990年
長谷川 正編著	『社会意識を育てる授業の創造』	東洋館	1990年
三重県教育センター	『地域素材を生かした社会科学習の研究』	三重県教育センター	1990年
朝倉 隆太郎編著	『地域に学ぶ社会科教育』	東洋館	1989年
北尾 倫彦編者	『自己教育力を考える』	日本図書文化	1988年
次山 信男著	『地域素材を生かす社会科単元の開発』	東洋館	1988年
青森県教育センター	『地域学習指導の手引き』	青森県教育センター	1987年
永井 滋郎編著	『社会科重要用語300の基礎知識』	明治図書	1981年
沖縄県教育センター	『教授活動と学習の成立』	沖縄県教育センター	1981年